

富山大学人文学部同窓会会報

人 文

No. 29

2007. 9. 1

富山大学人文学部同窓会

〒930-8555 富山市五福3190

電 話 (076)445-6143

F A X (076)445-6141

E-mail alumnit@hmt.u-toyama.ac.jp

題字 大島文雄先生



心理学者の音楽療法研究

平成5年、人文学部に心理学コースが創設されて以来、専任教員として心理学の教育と研究に携わってきましたが、この10年来、特に音楽療法の研究に力を注いできました。併行して「ドリーム」という音楽バンドを率いて、精神科などでの音楽療法活動も行っています。バンドの主力メンバーは人文学部の学生達です。音楽療法現場への応用の可能性も期待しながら、今後も心理学者の観点から実験や調査などを行い、音楽療法の科学的な根拠（エヴィデンス）を明らかにしていきたいと思っています。



富山大学人文学部教授 海老原直邦

人文学部の近況

富山大学人文学部長

小川 洋 通

Today is the first day
of the rest of your life.



我々に向けてくださいますようお願いいたします。

しわ寄せは、あらゆる面に現れております。日常業務の面では会議、委員会等多忙を極めています。したがって日々の教育・研究が、次第しだいにゆとりのないものとなっているのではないかと恐れています。学生は自分自身を見出さんとして苦闘しており、教員はゆつくりと学生の前で自らを語ることができずに悩んでいる。これは私ひとりの杞憂であることを願うてきます。ゆとり教育を受けてきた学生諸君が、今このようなゆとりでない状況におかれて戸惑っているというのが実情でしょう。

活動に取り組んでおります。受動喫煙の防止をうたう健康増進法により施設内での喫煙が全面禁止されております。このように大学構成員の一人一人が日常生活の場において自発的に環境改善に取り組むことが要請されております。

でもお世話様になっております。今後とも何かと宜しくお願いいたします。

人文の建物からは、相変わらず、悠久な姿をたたえ続ける剣・立山・薬師を望む雄大な北アルプスを春夏秋冬楽しむことができます。それがわれわれの日々の生活に勇氣と潤いを与えてくれております。目の前のテニスコートでは、若い学生たちが、毎日練習に励んでおり、それがまた我々に活力を与えてくれて

ますます貴重なものになってきている時間、これを大切にしながら日々過ごして行きたいと思っております。今のところ私は週末にテニス、山登り、スキーなどでリフレッシュに努めております。平日は庭の草木をいくつかしみながら、クラシック音楽を聞いたり、酒を肴とともに愛でたりして、わが身を癒しながら過ごしています。しかしながら、最近パスポートに触れる機会がなく、とてもさびしい思いもしております。

このたび学部長に就任いたしました。一言ご挨拶申し上げます。大学は今大変な状況に置かれております。競争原理がうたわれ、効率主義、成果主義のものと管理による差別化や締め付けが顕在化しており、いろいろな面にひずみをもたらしております。教職員、学生の意欲の向上のの名のもと、現実にはそれをそぐ事態を招いています。この難局をいかに乗り切つてゆくか、皆様のご協力とご指導のほどを宜しく申し上げます。

さて現在学部は、一学科、七講座、九コースという体制をと

とところでスリム化はあらゆる面で求められております。運営費交付金をはじめ、電気水道、冷暖房、印刷、パソコン、その他すべてに引き締めが行われております。教育研究費ももちろんです。したがって競争的外部資金を獲得することが至上命令です。世間の投げかける厳しい眼差しの中いま大学、学部は、

うか。

富山大学ではキャンパスマスタープランのもと、課題と目標が種々設定されております。それは次のようなものを含んでいます。構内交通、環境保全(環境マネジメント)、キャンパス美化、バリアフリー、エネルギー(省エネ)、災害防止(危機管理・ハザードマップ)、環境安全衛生(廃棄物・ごみ)などです。交通指導員、環境推進員、環境内部監査員や省エネ対策推進員、安全衛生委員等を設けて環境配

います。

ストレスをためながらも日々の教育・研究・業務に励んでいる中、少しでも元氣を取り戻そうとして卒業生からの諸々の便りを心待ちにしております。暮らしにくくなつてしまった今の社会で奮闘している皆様の姿は、若い学生や教職員に夢や希望を与えてくれます。常日頃OB、OGとの交流会など就職やキャリア教育またインターンシップなど、さらに教育実習、博物館実習、介護等体験、高大連携等

などでお世話様になっております。今後とも何かと宜しくお願いいたします。



これからも少数派で…

栗林佐知(36回文化人類)



受賞式の筆者

魔し、バイトに通い、学校にも時々行き、とても活動的な毎日を送っていました。

また、「人生で一番嬉しかったことは何か」と聞かれたら、私は、卒業後二〇年近くたった今でも「富山大学合格」と迷わず答えるのですが、そんなヤツは、これまた少数でしょう。

こんにちは。
一九八三年に入学し、八八年に卒業した、栗林佐知と申します。今、小説家の卵です。

突然ですが、どうも私は、仕方なく、「変わり種」のようです。まず、他県出身者が多くない富山大学へ、神奈川県から入ったというのが、少数派です(同期にもう一人だけいます)。

そんな少数派の中でもさらに、「富山県が日本でいちばん好き」などと広言してはばからない者は、少ないようです。

十代のころは学校と家を往復するだけでしたし、中年になった今は、ひきこもり(家で売れない原稿ばかり書いています)の私ですが、富山大生だったころは、年間一〇〇日くらい山へゆき、文化人類学のフィールドワークで八尾の町に頻繁にお邪

ると、何をやってもダメ。社会不適応なのです。一年に四回転職したこともあります。

ゆきづまった結果、行き着いたのが、「変でもダメでも、生きる権利くらいはあるだろう。無理せず好きなことをしよう」という境地です。小さいころ好きだった「物語を書く」作業を、がんばることに決めたのです。三十五歳になっていました。

それで、お次は「数少ない、富山大学出身の小説家」になれたら、めりたいのですが…

これが、そう簡単にはいかないようです。

書き始めてすぐ、文芸誌の新人賞に応募しまくりましたが、連続十二回予選落ち。雑誌の「中間発表」にも名前が

載らない悲しい日々です。それがどうしたことか、三年後の二〇〇二年、「小説現代新人賞」に

まぐれあたりしてしまいました。これで「扉が開かれた!」と思ったものの、担当編集者に毎月提出した作品は、へたすぎて、ボツまたボツの連続。一作採用してもらえた後も、またボツ、

ボツ、ボツ…

それでも私には、がんばる以外にありません。

まだ生きてるよ!

ということ、自分自身にも世間にも、証明したいと思い、ホームページをつくり、がんばりを記録することにしました。

あてのない努力に疲れ、世の中すべてから拒絶されているように感じがちな毎日の中で、ホームページは、心強い道しるべになってくれました。読んでくださった方から、「励まされま

す」というお便りもいただけで、いつもハズレ者の私は、嬉しくてたまりませんでした。

「富山大学合格」の次くらいに嬉しかったです。

そうすると、

だんだんに腹も座ってきました。それまでは、「私はズレてるから、何かすごく変な失敗をしてるに違いない。どうしたら、まともな作家さんのように気に入ってもらえるんだろう」と考えたあげく、人の言葉にふりまわされて混乱するばかりだったのです



左より清原慶子三鷹市長、津島園子さん(太宰氏長女)、筆者

「いや、自分の個性に嘘をついてはいけない。何を『よい』と感じるかに自信が持てなければ、物書きなんか、とうていなれない」と、思うようになりました。

ある時、編集者から「北陸の海や山とかは、やめてほしいんですよ、都会の恋愛を書かないとダメです」などと言われて、「え?」と思ったのも、「言われたことを鵜呑みにしてはいけません」と、悟るきっかけになりました。自分の中に根づいていた、力強い富山の風景が、ごく自然に「え?」と思わせてくれたのです。

太宰治賞という新人賞を、いただいたのは二〇〇六年、そんなふうに腹がすわってから、まもなくのことです。

今、その受賞から一年がたちました。よい編集者に出会えましたが、出版事情はきびしく、ちゃんと職業小説家になれるかどうか、前途は多難です。けれど、死ぬまで書いてゆくつもりなのは、相変わらずです。

(東京都在住)

栗林さんの受賞作『峠の春』は『ぴんはらり』と改題の上、筑摩書房より発行されています。「とらぶた法律事務所」というホームページもあるので、ご覧になってください。

西洋史専攻から 「通訳技能検定二級」への道

中山 すみ子 (20回史)



西洋史専攻の私が卒業後に始めた英語の勉強で、語学では最難関と言われる通訳技能検定一級に昨年合格。その間曲がりくねった長い道程がありました。

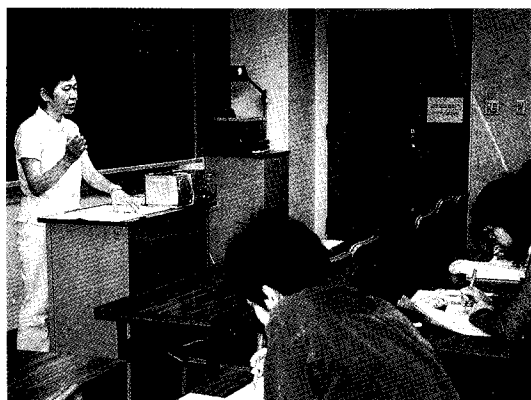
在学中は学生運動の最盛期。

私も政治に関心を持ち新聞記者になるのが夢だったが叶わず、公務員として県庁に勤めることに。だが全てが新しかった数年が過ぎた頃から一般職ではなく専門的な仕事がしたくなった。「では何を？」と考えた時に浮かんだのが高校時代に少々得意だった英語。働きながら独学で勉強を始めたのは二十六歳。英検一級合格が三十一歳と遅いスタートだった。その後、市立富山外国語専門学校の設立準備に携わり、開校後は講師として教える事になったが二年目で行き詰

る。少々英語が出来るだけで教えられるはずがなく当然だった。外専を辞め、英語教授法を学ぶため米国の大学院に入学した。勉強の傍らT・Aとして日本語も教え、のち博士課程に進み外国語教育について学ぶが論文を書き終え博士号を手にした時、自分は研究に没頭する学者肌の人間ではないと悟った。

七年余りの米国滞在を経て帰国し、富山で英語を教える。もう四十六歳。そして五十歳を前にした時に初めて自分の「年」を実感。焦る気持ちを抑えようと様々な試験に挑戦する事に決めた。一年の間に通訳案内業・国連英検特A級・TOEIC九九〇点をクリア。最後に残したのが通訳技能検定。目標は一級だが二級に合格していないと受験資格がない。まず英検一級程度の二級をクリア。目標の一級では逐次と同時通訳があり相

応の訓練を重ねないと歯が立たない。毎年英検一級レベル百人程の挑戦に合格率は二〜三%。合格者ゼロの年もある難関。闘争心を掻き立てられ通訳養成校に週一回二年ほど通ったが仕事に忙しくなり受験できず。やはり勉強した成果を形に...と昨年思いきって挑戦した。東京での三次試験は英日・日英の通訳の実技で緊張の連続だったが全合格者一名の中に入った。富大を卒業して三十五年。いま再び外専で教えている。英語を学びたい人達のお手伝いが少しでも出来たらと祈りながら。



英検クラスで学生を指導する中山さん(左)

中山さんの快挙は、平成十八年十月七日の北日本新聞に「難関 通訳一級合格」と大きく取り上げられました。(写真 北日本新聞社提供)

研究室から

歴史文化、東洋史コース

教授 澤田 稔

同窓会の皆さん、お元気にお暮らしでしょうか。平成十五年三月に小谷伸男先生が定年退官された後に私が着任して四年が経ちました。その間、十七年三月には東洋史談話会を開催して卒業生の方々との懇親を深めることができた嬉しく思っています。小谷先生は退官後、放送大学の富山学習センターを経て、本年四月から京都女子大学文学部に勤めておられます。

この四年間に富山大学の法人化、高岡短期大学・富山医科薬科大学との統合、人文学部

の改組とめまぐるしい変化がありました。人文学部は旧来の三学科制から人文学科の一学科に、コースも再編統合されて九コースとなりました。東洋史研究室は日本史、西洋史、考古学とともに歴史文化コースを構成し東洋史分野の教育と研究を担っています。

東洋史分野は澤田(中央アジア史・イスラーム史)、徳永洋介(中国史・法制史)、澁谷田里(中国史・近現代史)の三名で研究室を運営しています。ただし、このような制度上の変化にもかかわらず、現役生が少人数ながらも和気藹々と演習室で勉強に励む様子は四年前も今も変わっていません。卒業論文のテーマは伝統社会の時代から近代までの中国史全般、中央アジア・西アジア史と多岐に亘っていますが、三名の教員が協力してきめ細かい指導に努めています。末筆ながら、激動の波にもまれる時代のなかで、卒業生のみならずが元気に活躍されることを祈念いたします。



私が議員になったわけ

志 麻 愛 子 (19回国文)

仕事ばかりに熱中していた私が社会に目を向けるようになったのは三十五歳で出産してからでした。それまで何気なく見過ごしてきた社会のいろいろな不備に、子どもを育てるなかで気づくようになりました。遅い目覚めでしたが、子どもたちを取り巻く社会の状況に、大人の一人として責任を重く感じるようになったのです。

そして、生き方を見詰め直したいと四十歳のときに富山へＵターンし、地域のコミュニケーター誌「まいけ」を発行しました。そこで私は、環境、福祉、食、介護、子育て、教育、人権、まちづくり……多種多様な市民活動に取り組んでいる人たちと知り合い、多くのことを学び、共に行動してきました。

そのなかで、多くのことは政治と関わりがあり、政治の場で意見を述べなくては、なかなか問題が解決しないこともわかってきました。特に、女性議員は



富山市議会本会議場にて

全国的にもっと女性が議員にならなくてはという機運の高まりのなか、平成十一年、私は地盤（組織）看板（肩書き）カバン（お金）もないまま、富山市議会議員に立候補しました。支持者の視点を広げ、活動していき

で九年目になります。

私は富山市議会では、たった一人の無所属・市民派議員です。時々、「保守派無所属ですか、革新系ですか」「与党ですか、野党ですか」と聞かれて戸惑うことがあります。

何をもちて保守とか革新とか言うのでしょうか。守るべきものは守り、変えるべきものは変えなければなりません。地方自治体の仕事は、市民の生活に関わる諸施策です。地方自治体の議員として、私は常に市民のほうを向いていたので、あえて政党には属していません。

また、国では、国会議員のなかで首相を選ぶため与党と野党が存在しますが、地方自治体では、首長も議員もそれぞれ選挙で市民から選ばれる二元代表制なので、与党も野党もありません。地方自治体議員は、政策の提言と、首長をトップとする行政をチェックすることが役割です。私は議案に対して常に是非を貫いています。

地方分権がどんどん進み、市民自治の確立は急務です、私は当初の志と信念を堅持し、生活者の視点を持って、活動していきたいと思っています。

研究室から

ドイツ言語文化コース

准教授 阿部 美 規

卒業生の皆様、お変わりございませんか。人文学部は平成十七年十月に人文学科一学科の学部となり、従来のドイツ言語文化コースは、ドイツ、フランス、ロシアの各言語文化を教育研究分野としてもつヨーロッパ言語文化コースに統合され、新たなスタートを切ることとなりました。

ルツブルクからエファ・カペラー先生を迎えることができ、現在は日本人教員（山本、北村、別本、宮内、黒田、阿部）を合わせ総勢七名で専門教育に当たっています。

今年度はドイツ語を専攻する新二年生九名と、旧コースに属する上級生八名の合計十七名がドイツ言語文化を学んでいます。恒例となった金沢大学との合同ドイツ語合宿を経て、新二年生たちも当初は戸惑いを隠せなかった「ドイツ語漬け」の毎日に次第に馴染んできているようです。

近年独文コースの卒業生には、民間企業・官公庁などへ就職する人と並び、大学院やドイツの大学に進学する人、就職したりする人も出てきました。卒業生の皆様、それぞれの持ち場で活躍されている様子をうかがうのは、我々教師にとってはまたとない喜びであり、在学生にはこの上ない励みになります。皆様からの近況報告、心より楽しみにいたしております。



頑張るママアナウンサー

中山 千桂子 (43回比較文学)

私がアナウンサーになりたいと思ったのは大学三年生の時。テレビ局で番組レポーターをさせて頂いたのがきっかけでした。就職活動はアナウンサーにしほって日本全国受験しまくりました。そして縁あって徳島県にある放送局、四国放送から内定を頂き大学卒業と同時にアナウンサーとしての生活が始まりました。



アナウンサー歴十一年。見知らぬ土地の徳島も、取材で県内隅々まで足を運んで地元の方よりも詳しくなりました。皆さん徳島と言って連想することは何でしょうか？鳴門のう

ず潮？阿波踊りかな？阿波踊りの美しさに魅了された私は踊り連にも所属して踊りもマスター、すっかり徳島県人になっていきます。

全国放送にも出させて頂きましたよ。「恋のから騒ぎ」には2回出演。お盆の阿波踊り中継や全国女子アナ大集合などなど。今は夕方ニュース番組のキャスターをしています。ニュースを読むことが主ですが、取材に出かけ映像の構成や原稿執筆をすることも多く、最近では裁判員制度に関する取材が続けています。

私の勤務する四国放送は、テレビだけでなくラジオ放送もしているのがアナウンサーの活動の幅は広いです。ラジオの場合三〜四時間生放送もあって、パソナリティとしての魅力で勝負！私の生活そのものがネタになります。

四国放送のHPを覗いてみて下さい。個性派アナウンサーが

勢揃いしていますよ。ベテラン女性アナウンサーが活躍して仕事を続ける上で恵まれた環境だなあと感謝しています。

私自身周囲の助けを借りながら一児の母として仕事を続けています。働くママを取り巻く環境は厳しいのですが、母となつたことで表現力が増しさらにスキルアップできると確信しています。阿波女パワーはすごいんですよ。

最後にアナウンサーという職業を選んで日々感じていることをお話ししましょう。言葉というのは、コミュニケーションの一つの手段。当たり前のことと思われるかもしれませんが、自分の目で見て考え、体験から学んだ「自分の言葉」で話すことがとても大切だということです。美しい日本語が現在の危機的状態にあると言われています。「言葉」を使うことを職業としている私にとっても、論理的に相手に伝わるように話すことは大変難しいです。

「美しい言葉」の種を蒔き丁寧に育てしっかりと根付かせていこう。美しく豊かな日本語を発信していきたいと思っています。

(徳島県在住)

韓国映画の現場に生きる

藤本 信介 (51回比較社会)

今、私は韓国にて韓国映画の現場で演出部スタッフとして働いている。韓国に来て早くも五年を超え、韓国生活にも不自由せず、毎日を楽しみ過ごしている。さらに好きな国でやりたい仕事を網渡りだとしても続けている。恵まれたことだと思う。仕事はさすがにつらいことは絶えないが、そのつらさの分、楽しいこと満足度もアップするようない気がする。韓国の映画現場には外国人スタッフはほとんどいないという点を考えても、本当にいい経験をさせてもらっている



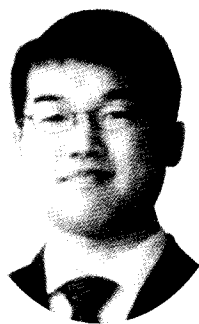
右が筆者

のだなといろんな人に感謝せずにはいられない。

今関わっている映画は「ザ・ゲーム(仮)」というタイトルで、「JSA」に出演していたシン・ハギユンさんが主演の映画で今年の末に公開する予定だ。六月四日にクラクインし、九月の中ごろまでの撮影において私は演出部として働いているが、演出部というのは助監督をして、監督になるためのコース、チームと表現すればいいか。現場では、監督が撮りたいイメージを表現するために、撮影、照明、美術、メイク、衣装、録音などの各チームをまとめて、撮影が

『一期一会』

下野哲生(引回言語)



富山大学を卒業し、中学校の英語教師になって五年目になる。学生時代から今日までの自分の人生を振り返ると、このことばに尽きる気がする。

私は高校を卒業し、名古屋の大学で英語を学んでいた。社会言語学の田中先生の講義を受け、世界のことばに興味を持ち、学んでみたいと強く思うようになった。編入学して言語学を学べる大学として私が選んだのが、富山大学文学部であった。

富山大学で学ぶことができたことに大変感謝している。言語学コースはアットホームだった。明るくおもしろい先生をはじめ、先輩や後輩にも恵まれた。演習などは大変だったが、少人数で

学べたことがとてもよかった。

専攻の言語学の他にも、他コースの講義を受けることができたので、幅広い教養を身につけることができた。教員免許の取得や採用試験対策では教育学部の新里先生にもお世話になった。

また、金沢大学文学部との単位互換制度があり、週二日は金沢に通い、十四単位修得したこともよい思い出となっている。

人は一生にどれくらいの人と出会えるのだろうか。教師となつた私は一般的な数よりも多いほうになるだろう。そのことに感謝しながら、一人一人との出会いを大切にできるかは私の心がけ次第である。

出会いは偶然であるとはよく言われるが、出会いは必然であるとは私は思う。その出会いを、その時間を、その会話を「一生に一度限り」という気持ちで大切にできれば、さらに次につながるし、きつと新たな出会いも広がるが、きつと新たな出会いも広がっていくのではないだろうか。

後列花束を持つのが筆者



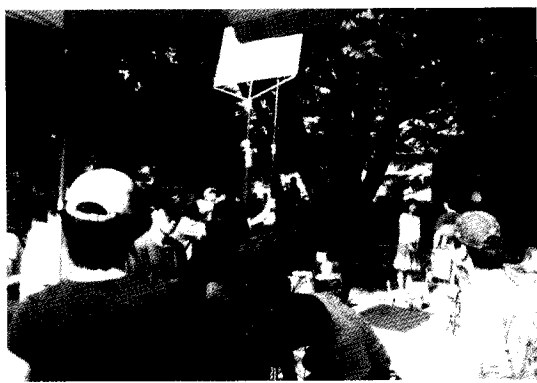
「人生、出会うべき人には必ず出会う。しかも、一瞬遅からず、早からず。しかし、内に求める心なくば、眼前にその人ありといえども縁は生じず。」という教育学者の森信三先生のことばも好きである。

卒業時に指導教官の加藤先生が「ことばは人とともにあることばは人を映す鏡となる。諸君の未来に幸多かれ」とメッセージを送ってくださった。それが意味していることを忘れず、これからも頑張っていきたい。

(鹿児島県在住)

スムーズに進むようにするのが自分たちの任務だ。大変なことは多いが、スタッフはみんな、一秒でもいい絵をスクリーンに映し出そうとかかなりの努力をしている。劇場で見る一秒一秒に六十人を越えるスタッフの汗と涙がこめられているのだ。この映画が日本でも公開されますように。

もともと韓国という国に興味はまったくなかったのが、人文学部と韓国の国民大学校が交換留学制度を結んだことがきっかけで韓国からの留学生と仲良くなり、そしていつの間にか自分の中に韓国が大きく育っていた。それに気づいたときは本当に驚き、何かを好きになることの一



番大きなきっかけは人との接触なんだろうとこのときに強く感じた。そして大学四年の後期から一年間の韓国留学を決意した。今の自分、好きな国にいる自分、「好きなことをやっている自分」いい経験をしている自分をさかのぼっていくと、人文からの留学が始まりだから、改めてこの留学制度を結んでくれた先生たちには感謝してもきれない。

人文に入っていなかったら自分は今ごろどうなっていただろう。今の自分がなかったら、と考えるだけでも怖いことだ。最終目標は映画監督になること。それは日本であれ、韓国であれ、国なんてのは関係ない。いつの日か、人文を舞台にした学園ものでも企画してみようか。そのときはみなさんご協力よろしく願います。

映画をやろうと韓国に来るとき、つらくてもあきらめずに三十歳までは耐えようと強く決意してきた。韓国では生まれてすぐに一歳と数えるから、来年三十を迎えることになるが、まだまだ自分にできることはない。準備は整った、これからが自分の本番スタートだ。

(ソウル在住)

平成19年度人文学部 総会へのお誘い

拝啓 残暑の候となりましたが皆様にはご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて本年度も下記の要領で総会・講演並びに懇親会を開催いたします。

多数ご参加いただきたくご案内申し上げます。

敬白

人文学部同窓会長 松平 義磨

日時 19年11月10日(土) 午後1時30分

場所 ボルファートとやま

(富山市奥田新町81 TEL 076-431-1113)

講演

講師 海老原直邦 教授

演題 心理学者の音楽療法研究

現在は以下のようなテーマを中心に研究を進めています。

①音楽によるイメージ誘導法 (GIM): ある種の音楽を聴きながら、持続的にイメージ(心像)を思い浮かべる事が、精神的な浄化作用や自己洞察をもたらすことが知られており、その心理療法的な効果について検討しています。

②音楽のストレス解消効果: 心身のストレスが昂じたときに音楽を聴くと、速やかに気分が改善し、ストレスが解消するという仮説について、実験心理学の手法を用いて検討しています。生理学的な指標としてストレスホルモンの測定なども行っています。

③音楽が認知機能に及ぼす影響: 音楽を聴取した米国大学生の問題解決能力(知能)が一時的に向上したという「モーツァルト効果」は有名ですが、音楽が感覚や知覚、記憶などの認知機能を促進する可能性を探っています。

懇親会: 午後4時

会費: 5000円(当日受付にてお納め下さい)

同封のはがき(現況通知連合同窓会・総会・懇親会出欠の回答)を9月21日迄に是非ご返送願います。

「富山大学同窓会連合会」 設立総会開催のご案内

前年度発行の本会報でも既にご案内していましたが、「富山大学同窓会連合会」がいよいよ発足の運びとなりました。

平成十七年十月、八学部からなる新富山大学が誕生したことを機に、各学部同窓会の連合会を設立する機運が興り、平成十八年七月に各同窓会並びに大学当局の代表者が集まり、以降九回に及んで準備・検討会を重ねて来ました。

その結果、各学部同窓会の交流・連携を推進するとともに、その総合力を結集して、大学のさらなる発展に努めることを目的とする「富山大学同窓会連合会」の設立総会を下記の通り、開催することとなりました。

本会会員の皆様には、是非とも多数ご参加くださいますようお願い致します。

期 日	平成19年10月6日(土)
会 場	名鉄トヤマホテル (TEL 431-2211)
記念講演会	午後3時より
講師	北野芳則氏 YKK(株)代表取締役副会長 昭和35年3月富山大学文理学部理学科卒業
演題	「師・吉田忠雄と私」
設立総会	午後4時30分～
記念懇親会	午後5時30分～
会 費	10,000円

人文学部教官異動

○藤本 幸夫

(朝鮮言語文化)

平成19年3月

退官

○小川 洋通

平成19年4月

人文学部長就任

原稿募集

皆様の随筆、短歌、俳句、詩をお寄せ下さい。同窓会又は会報「人文」への御意見もお待ちしております。

「同窓会連合会」の 設立総会」で 逢おう!!

学生時代は若者の熱いエネルギーをおつつけ合ったいろいろな出会い・喜び・悩みがあった。サークルや研究会、アルバイト、スポーツなどで出会った友は多い。若い日の自分や久しぶりのアノ顔たちにもう一度逢うのなら、学部を越えたコレが一番! 母校の新たな「誕生」を祝い健やかな成長への熱い想いを共にしよう。

一 訃 報

謹んでご冥福をお祈り致します

宮島 遵 (哲学16)

平成16年7月4日

島崎 良平(史学3)

平成16年9月

道海 昭(英文11)

平成17年10月31日

伏見 玄太(西洋史53)

平成17年12月

湯上 友弘(史学6)

平成18年3月8日

溝上 信彦(英文1)

平成18年5月5日

「年会費」報告

本年度の年会費納入状況をお知らせします。

平成十八年十月より平成十九年五月三十一日まで、四一〇名(終身会費九名、年会費四〇一名)の方々から四十九万一千円の年会費を納入していただきました。

ご協力厚く御礼申し上げます。

編集委員

稲垣 栄子 志麻 愛子
佐野 和美 田中 史子
山藤 登